

第7回市島地域市立小学校統合準備委員会次第

日時：R4.9.13（火）19:30～

場所：ライフピアいちじま研修室

1 開 会

2 あいさつ

3 地域部会からの報告及び承認事項

（1）竹田・前山地域部会

【承認事項】

①統合後の通学支援について（P10-P15）

②校名の公募について（P16-P17）

【報告事項】

①統合後のアフタースクールの在り方について（P18-P19）

（2）吉見・鴨庄・三輪地域部会

4 1校統合について【協議事項】（P24-P27）

・各地域部会からの報告

5 その他

6 次回委員会の日程について

・日 時 月 日（ ）19時30分～

・場 所

7 閉 会

[illegible]

会議記録

令和4年7月11日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第6回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年7月8日（金）19:30～21:30
- 場所 ライフピアいちじま
- 出席者 委員：青木修、余田義信、山邊敦、荻野幸広、藤田泰生、溝部康祐、余田
亜美、足立和宏、吉見典彦、余田淳子
[事務局]
教育総務課：足立次長、船越係長、小田、畑中
学校教育課：谷川副課長
[担当課]
子育て支援課：荒木課長、芦田係長
ふるさと定住促進課：藤浦課長、足立係長
- 内容
 - 1 「5校→1校」統合について
全体会で各地域部会でも協議を実施することとなった、1校統合について、委員の意見を伺った。
【意見等】
 - ・全体会では、個別の統合が忙しくなるので、落ち着くまで1校の協議は難しいのではないかという意見があった。また、個人的にも厳しいと感じており、協議事項として残されると負担に感じる側面もある。
 - ・いつかは1校になるということは感じているが、今それを論議すると校舎改修が先延ばしになる可能性があるなど、段階的統合の足かせになっているように感じる。実際のところ、1校統合が早い段階で決まるとも思えないので、現段階では凍結という形がいいと思う。
 - ・資料の書き方を見ると、「5校→1校」とあるので、段階的な統合（「5校→2校（3校）」）を否定しているようにも捉えられる。
 - 過去の協議の中でこども園の範囲で段階的に統合を実施するということは決定している。また、表現の仕方の問題もあるので、今後の資料では表現方法を検討する。（事務局）
 - ・地域の感覚としては1校統合を目指すよりも、「複式を解消するために統合をする」という思いが強いと感じている。
 - ・今進めている竹田小学校と前山学校の統合が終わり、落ち着いてから1校統合の話をすべきだと思う。
 - ・1校統合の話は今の段階では難しく感じる。三輪小学校の統合が令和12年度を目安で考えられていると聞いたのでそこを基準として再度検討する形を取ってはどうか。
 - 三輪小学校の統合をターニングポイントとしても、その時期の児童数を見ると2～3クラスが予想され、その人数が入りきる校舎がない。そのようなことを考えると、ある程度人数が減ってきて複式学級が予想される時点になってから考えるのがいいのではないか。
 - ・1校統合をどうするかについては、各校区でしっかり個別に話し合う必要があると思う。

【決定事項】

竹田・前山地域部会としては、1校統合の協議については一旦凍結し、段階的統合を実施した後に状況によって協議を再開する方向で検討する。

2 統合に向けた今後の協議項目及びスケジュールについて

事務局より、令和6年4月の統合に向けたスケジュール案の提案を行った。

【意見等】

- ・スケジュールにある「決定」は部会での決定、全体会での決定のどちらか。
- 全体会での決定を想定しているため、部会の決定は記載されている時期より早く決定する必要がある。(事務局)

3 統合後の通学支援について

竹田小学校と前山小学校の統合については、路線バスの活用も検討されており、現時点での想定されているバスの経路やダイヤについて、担当のふるさと定住促進課より説明を行い、委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・竹田小学校区の児童も乗車はできるのか。
- 運賃を払えば乗車はできるが、前山小学校区児童の統合後の通学支援を想定しているため、竹田小学校区の児童については補助等で費用を市や教育委員会が負担することは予定していない。(ふるさと定住促進課・事務局)
- 現在、安下あたりの通学ではガードレール等が何もない場所を児童が通学している。安全面なども論理的に考えて、竹田小学校区の児童も乗車できないか検討してほしい。
- ・路線バスの運行はまちの発展についてはとてもいいことだと思うが、児童以外の一般の方も乗車するため、安全面の不安もある。都会にある私立学校では路線バスで通学する児童もいるが、地元住民はそのイメージがわからないので路線バスが全てにおいて好意的に受け入れられるかは疑問が残る。
- ・左右で路肩の広さが違うバス停もあるので、安全性についても今後検討してほしい。
- ・高校生の利用も可能なのか。
- 丹波竹田駅に停車するので利用は可能であるが、小学校の通学に合わせたバスダイヤであるため、高校生の通学時間帯に合わない可能性が高い。(ふるさと定住促進課)
- ・路線バスの運行はどこが行うのか。
- 神姫グリーンバスの予定である。(ふるさと定住促進課)
- ・その他の公共交通機関との調整はできているのか。
- 各公共交通の事業者とは事前に調整は実施している。(ふるさと定住促進課)
- ・ICカード以外の現金でも利用できるのか。
- 現金の支払いも可能である。また、実際に通学する際は、児童にICカードを配布する予定である。(ふるさと定住促進課)
- ・徳尾や鴨阪にバス停を設けることはできないのか。
- 実際に現地確認も行ったが、転回する場所が必要となり、難しいと考えている。(ふるさと定住促進課)
- ・バス通学になることで児童の体力低下を心配している。
- ・専用スクールバスとのメリット・デメリットの比較なども説明をしてほしい。例えば立席のため、急ブレーキの際の安全性などに不安がある。
- ・路線バスを実際に運行するまでに要する期間はどの程度必要か。
- スケジュール表にあるように、遅くとも年内に決定いただかないと令和6年4月の開校に間に合わない。また、新規路線となるため、地域公共交通活性化協議会にも諮る予定としている。(ふるさと定住促進課)

- ・急な大雨などの場合にも対応はしていただけるのか。専用スクールバスのほうが融通が付きやすいイメージがある。
- 大雨の場合等は臨時便で対応する予定である。(ふるさと定住促進課)
- ・学校側としても公共交通で通学しているところをイメージできていないのが現実であるため、安全性の検討や説明等をしっかりと行ってほしい。
- 通学に使用するというのを念頭に置いてバス会社と安全性の確保について協議をしていきたいと考えている。(ふるさと定住促進課)
- ・土日祝日の運行がないとのことだが、参観日等は臨時便の運行があるのか。
- 臨時便の対応を考えている。(ふるさと定住促進課)
- ・路線バスとなった際の運賃の各家庭の負担はあるのか。
- 全額補助とすることを予定している。(事務局)
- ・スクールバスとの比較について教育委員会と調整をし、次回以降説明を行っていききたいと考えている。(ふるさと定住促進課)

4 統合後のアフタースクールの在り方について

統合後のアフタースクールの在り方について、担当の子育て支援課から説明を行い、委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・アフタースクールについては、この統合準備委員会の場よりも実際に利用している保護者に意見を聞くべきではないか。
- 保護者の意見については不安がないように安全に配慮した形で運営をいていきたいと考えている。鴨庄小学校の統合においては個別に PTA の会議に参加し意見を伺う機会を設けた。そういった機会も利用して意見を伺えたらと考えている。(子育て支援課)
- ・これまでと同様に竹田と前山の両方でアフタースクールを実施することは不可能なのか。
- 市の方針としては1校区につき、1ヵ所のアフタースクールという方針で実施をしている学校統合があっても基本的には同様と考えている。(子育て支援課)
- ・路線バスで通学することとなった場合に、最寄りのバス停から小学校までの定期を使用することになるので、アフタースクールまでの送迎については考える必要がある。(事務局)

5 校名・校歌・校章について

統合後の校名・校歌・校章について、事務局より市内のこれまでの統合の際の事例について説明をし、委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・市島中学校に統合する前に竹田地域と前山地域の生徒が通学していた「竹山中学校」の校歌歌詞を持ってきた。保護者世代の若い委員とは感覚が少し違うかもしれないが、年配の地域の方には「竹山小学校」になることについて説明はしやすいし、理解はしてくれると考えている。
- ・全体会で意見が出た、「市島第1小学校」「市島第2小学校」などの校名はどうか。
- その場合は吉見・鴨庄・三輪地域部会との調整も必要となる。1校統合にも影響が出る。
- ・最終的に1校になると思っていたので、その場合は「竹田小学校」でいいと思っていたが、1校統合の話が凍結となりそうなので、もう一度考えたいと思う。また、1校統合の協議が再開される時期にも影響される。
- ・竹田・前山統合小学校（通称「竹山小学校」）のような形をとれば、卒業証書には両校の校名を残すことができる。
- ・校歌について、1番は竹田小学校のものを歌い、2番は前山小学校のものを歌うという形もよいのではないかと。

6 その他

- ・次回以降日程 ○令和4年7月26日（火）19時30分～
ライフピアいちじま

会議記録

令和4年7月27日

- 会 議 名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第7回竹田・前山地域部会
- 日 時 令和4年7月26日（火）19:30～21:00
- 場 所 ライフピアいちじま
- 出 席 者 委員：青木修、余田義信、笹倉博、山邊敦、荻野幸広、藤田泰生、溝部康
祐、余田亜美、足立和宏、吉見典彦、余田淳子
[事務局]
教育総務課：足立次長、船越係長、小田、畑中
学校教育課：池内次長
[担当課]
ふるさと定住促進課：藤浦課長、足立係長

●内 容

1 統合後の通学支援について

前回の協議で要望があった専用スクールバスと路線バスの比較について事務局から資料で説明し、統合後の通学支援の方法について委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・前山地域で地区懇談会を開催した際に意見徴収を行い出た意見としては、「路線バスは社会性が身に着くが安全面が心配」「今のご時世、どんな人が乗ってくるのかわからない。」「実際にバスを走らせ、地域の方にも乗ってもらってシミュレーションをしてほしい。」といった意見があった。
- ・路線バス車両を実際に走らせてのシミュレーションは可能か。
→実際に走行する車両を借り上げて実施することは可能である。（ふるさと定住促進課）
- ・前山地区自治振興会の会議で通学のために路線バスを運行することについて話し合ったが、誰が乗ってくるかわからないので、安全性を確保するためには専用スクールバスのほうがいいという意見が多かった。
- ・鴨庄地域のスクールバスは塚原地域まで運行するのに、前山地域ではなぜ徳尾や鴨阪まで入れないのか。実際に運行するなどしてもう一回検討してほしい。
→専用スクールバスの場合でも鴨庄地域と同様にスクールバスを試走し乗り入れが可能か検討することも可能である。（事務局）
- ・こども園で意見を徴収した中で、「自分の子どもは竹田地域だが、近所に子どもが少なく、長距離を通学している。今後一人で通学する可能性もあるため不安に感じているのでスクールバスやタクシー通学を検討してほしい。」「路線バスの場合は安下がバス停になっているので、竹田地域でも安下の児童はバスに乗れるようにしてほしい。」「竹田地区・前山地区の括りにとらわれることなく、子どもたちが安全に登校できる方法を考えてほしい。」「議論の余地があるのであれば、防犯面や熱中症対策で竹田地域の児童にもバスを出して欲しい。」「前山地域はバスで竹田地域は徒歩なのは公平性にも欠けるし、児童の体力にも差が出てしまう。」という意見があった。
- ・前山地域でも基準の4km未満の地域もあるので考え方の整理はしてほしい。
- ・竹田小学校の児童数は昔は多かったが、現在は児童数が少ない中で通学している児童もいるので、今までどおりと同じだからバスに乗れないで終わらせるのではなく、後でしっかり考えてほしい。

- ・比較表で見ると明らかに専用スクールバスが選ばれるように思う。路線バスを運行することに社会的な意義があると感じていたが、自治会など地域の方も専用スクールバスがよいという考え方であれば、専用スクールバスでよいのではないか。
- ・路線バスを実際に試走することはできるが、どうするか。(事務局)
- 地域側が路線バスを特に望んでいないなら、無理に実施する必要はないと思う。
- 自治会で話合った中では、便数が少ないこと、市島の中心部に行けないことからあまり利便性がないという意見があった。
- 今回は学校の統合に合わせて通学で使える路線バスの運行を提案しているが、その後も地域の中でその路線バスをどう活用できるかの検討をすることが大切で、一定の需要が見込めるのであれば次の展開もあり得ると考えていただき、市としても検討をしていきたいと考えている。(ふるさと定住促進課)
- 市がまちの発展なども考えて路線バスを運行したいという気持ちはわかるが、前山地域の住民は統合に関して苦渋の決断でここまで来ている。その中で前山地域の方の不安を置いておいて路線バスを運行することはできないと思う。
- ・竹田小学校 PTA で話し合いをしたが、「前山地域の保護者の立場で考えると専用スクールバスのほうがいい。」「(路線バスの場合) 不審者が乗車してきた場合どう対処するのが心配。」「便数が今後増える可能性があるとしてもまだ不透明で地域活性化につながらないのではないか。」という意見があった。
- ・学校側から見ても専用スクールバスのほうがいいように思うが、専用スクールバスを選択した場合、路線バスの運行はなくなるのか。
- 次の統合の段階で児童の大量輸送の需要が出てきた場合などは運行の可能性もあるが、市島地域では JR の運行等もあり、交通空白地帯ではないので、現段階では可能性は限りなく低いと考えている。(ふるさと定住促進課)

【決定事項】

竹田小学校と前山小学校の統合における通学支援は専用スクールバスを運行することで今後協議を進める。

2 校名について

山南地域の統合中学校の校名公募の例を参考資料として事務局より説明し、統合後の校名の決め方について委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・竹田小学校 PTA で校名について話し合いをした中では、「前山小学校の校名を残したい気持ちはわかるが、実際に通学する児童は今後新しく入学する児童なので問題は生じないのではないか。」「名前を変えると費用や手間もかかるので、その予算を施設改修に使用してほしい。」という意見があった。
- ・前山小学校の地区懇談会では「竹田と前山のどちらかの漢字を使用してほしい。」「全く違う校名にしてほしい。」「校名よりももっと大事なことがある。」「校名ではなく他のところで児童にお金を使ってほしい。」という意見があった。具体的な候補としては、「竹前小学校」「あいいく小学校」「市島小学校」「竹田小学校」「竹山小学校」「竹田・前山小学校」が出た。数としては「竹山小学校」を希望する人が多かった。
- ・お互いの校名を使用して「竹山小学校」がいいと感じている。
- 年配の方はそのような意見が多いと思うが改めて地域の幅広い意見を集め、皆に納得してもらうために公募するのがいいのではないか
- ・校名を変えた場合の費用はどの程度生じるのか。費用面も考慮する必要があるのではないか。
- 高いものだと校旗や体育館の緞帳などがある。校歌の作曲料や公募で選ばれた方の謝礼

金なども発生する。(事務局)

- ・山南の統合中学校の校名募集時と同じように校名に込めた思いなどを記入いただいて、それを大事に考えていくことが大切だと思う。
- ・実際に小学校に通学している児童を対象に公募をするのがいいと思う。
- ・公募した場合も、一番公募数が多かった校名が採用される可能性が非常に高いため、それを防ぐために、公募数を伏せて委員で投票するなどの形をとってほしい。

【決定事項】

統合後の校名は公募を行い決定する。選考の方法についても次回協議する。

- ・次回以降日程 ○令和4年月8月30日(火)19時30分～
ライフピアいちじま

会議記録

令和4年8月31日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第8回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年8月30日（火）19:30～21:00
- 場所 ライフピアいちじま
- 出席者 委員：青木修、余田義信、笹倉博、山邊敦、荻野幸広、藤田泰生、余田亜美、足立和宏、吉見典彦、余田淳子
[事務局]
教育総務課：船越係長、畑中
学校教育課：池内次長
[担当課]
子育て支援課：荒木課長、芦田係長

●内 容

1 校名の公募方法について

事務局より、校名の公募に関する募集要項、応募用紙及び選考要領の案を提示し、委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・個人的には子ども園を運営している竹山愛育会の園児が、竹山小学校に通うのが自然だと思うので、竹山小学校を推していた。
- ・前の部会でも発言したが、校名を変えることは今後 PTA の規約を変えるときや校歌を考えるときに非常にネックになる。緞帳を変えたりする費用もかかる。そのようなことに予算を投じるなら熱中症対策でプールに屋根をつけることなどに使ってほしい。
- ・元々は子どものために早く統合しようという話で進んでいたことが、校名を変えるか変えないかで引きずるのはよくないと思う。公募して校名を変えることに反対ではないが、個人的には必要がないと感じている。
- 前回の部会で校名については公募することで決定している。また、学校で児童を預かる立場からしても、みんなから愛される学校にしていきたいと考えており、そのためにも公募でいろいろな人の思いを知るために公募を実施することに賛成である。今は公募をどのように進めるかについてしっかり話し合うべきだと思う。
- 《公募方法について》
 - ・他の地域の人にはあまり関係がないことなので、竹田・前山地域の方を対象に公募を行ってほしい。
 - ・年齢制限などは設けたほうがいいか。
- 山南地域統合中学校では年齢制限を設けておらず、児童や生徒からも応募いただいた。（事務局）
 - ・全国公募は対象を広げすぎだと思う。
 - ・統合準備委員会の全体会でも承認を求める事項なので、2地域だけで勝手に決めるのはよくないという意見も出てくるかもしれない。
 - ・卒業生を応募対象に加えるか。
- 学校に対する思いを持っている方も多いと思うので応募対象に加えるべきである。

【決定事項】

- ・募集期間 : 2ヶ月間程度
- ・応募対象者 : 市島町在住の方と市島地域の小中学校卒業生
- ・応募可能数 : 一人につき1点

《選考方法について》

- ・応募数を開示すると多くの票を獲得した校名に決まってしまうのが明らかなので選考会を行う意味がなくなるのではないかと。また、竹山小学校や竹田小学校など、現段階で応募数が多い校名がある程度予想できてしまう。
- ・現状の竹田小学校という校名でいいと思っている人は積極的には応募しないことが予想されるので、応募数を開示してもそれが必ずしも市島地域の総意ということにはならないのではないかと。
- ・公募を行う元々の目的が部会員だけでなく広く意見を聞くことだったので、応募数を開示したほうが判断材料は増えてよいのではないかと。

【決定事項】

選考要領や選考の際に配慮すべき事項については継続協議とする。

2 統合後のアフタースクールの在り方について

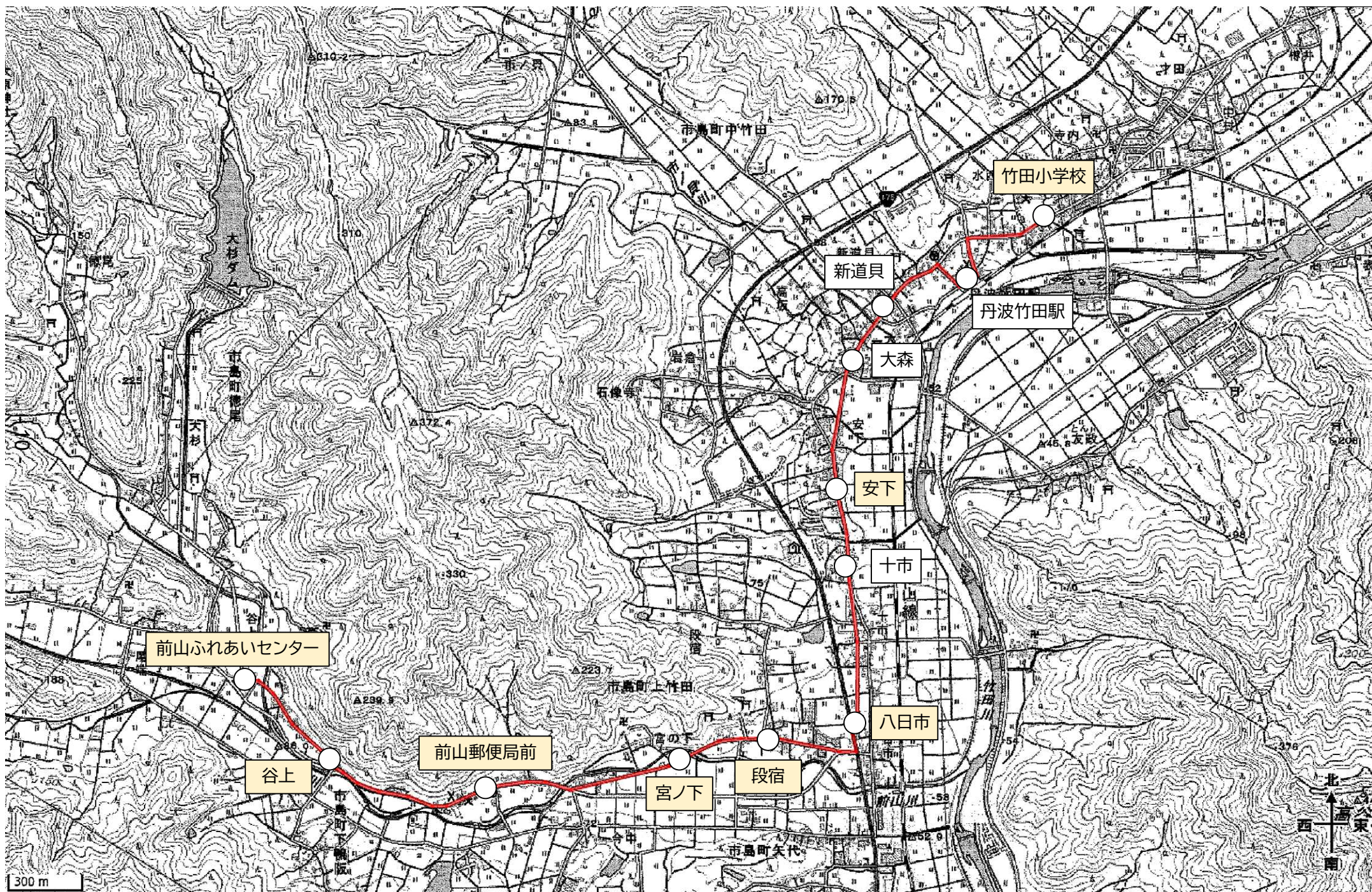
子育て支援課が行ったアフター利用者との意見交換会の結果や今後もアンケートなどで意見収集を行うことを報告し、委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・市は1校区につき1アフタースクールという方針を持っているので、現実的には竹田アフタースクールに通うことしか考えられないため、アンケートの内容は統合後のアフターの場所はどちらがいいか聞く形ではなく、竹田アフターになることを前提に、その場合に配慮してほしいことは何かを聞くような内容がいいのではないかと。
- ・前山地域の保護者に竹田アフタースクールの施設を見学してもらうなどの配慮が必要である。
- ・アンケートは現在のアフタースクール利用者だけでなく、こども園利用者にも実施してほしい。
- ・アンケートを実施した場合、不満がある人の意見が集まることが多い側面も考えるべきで、内容はしっかり考える必要がある。
- ・一方的に決めようとは考えておらず、アンケートの結果や学校との距離や送迎の課題、学校との連携のとりやすさなどを考慮し、児童を安心して預けてもらえるように総合的に判断していきたいと考えている。(子育て支援課)

- ・次回以降日程 ○令和4年月9月21日(水) 19時30分～
竹田小学校 体育館

前山～竹田間バス通学想定ルート・乗降バス停位置



※ が児童の乗降バス停

◆ 前山～竹田間 バス通学乗降バス停位置予定写真

前山ふれあいセンター



谷上



前山郵便局前



宮ノ下



段宿



八日市



安下



竹田小学校（登校時）



竹田小学校（下校時）



※上記写真の場所はいくまでも現段階（令和4年7月時点）での候補地であり、今後の関係機関との調整により変更になる場合があります。

前山～竹田間バス通学想定ルート(バス停はおおよその位置で予想)

バス停位置	区間距離 km	トータル km	想定時間 分		想定ダイヤ					
					朝↓	朝臨時↓	夕1↑	↓	夕2↑	臨時↑
					始		⇒	↓	終	
前山ふれあいセンター		0.00		0:00	7:35	9:35	15:16	15:35	16:16	12:46
	0.44		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
谷上		0.44		0:01	7:36	9:36	15:15	15:36	16:15	12:45
	0.71		0:02		↓	↓	↑	↓	↑	↑
前山郵便局前(今中)		1.15		0:03	7:38	9:38	15:13	15:38	16:13	12:43
	0.77		0:02		↓	↓	↑	↓	↑	↑
宮ノ下		1.92		0:05	7:40	9:40	15:11	15:40	16:11	12:41
	0.37		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
段宿		2.29		0:06	7:41	9:41	15:10	15:41	16:10	12:40
	0.45		0:02		↓	↓	↑	↓	↑	↑
八日市		2.74		0:08	7:43	9:43	15:08	15:43	16:08	12:38
	0.70		0:02		↓	↓	↑	↓	↑	↑
十市		3.44		0:10	7:45	9:45	15:06	15:45	16:06	12:36
	0.30		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
安下		3.74		0:11	7:46	9:46	15:05	15:46	16:05	12:35
	0.54		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
大森		4.28		0:12	7:47	9:47	15:04	15:47	16:04	12:34
	0.30		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
新道具		4.58		0:13	7:48	9:48	15:03	15:48	16:03	12:33
	0.33		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
丹波竹田駅		4.90		0:14	7:49	9:49	15:02	15:49	16:02	12:32
	0.56		0:02		↓	↓	↑	↓	↑	↑
竹田小学校		5.46	0:02	0:18	7:51	9:51	15:00	15:51	16:00	12:30

スクールバス・路線バス 車内の様子（写真）

【スクールバス】



【路線バス】

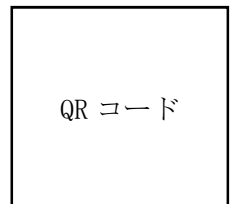


竹田・前山 バス通学支援・形態比較

	スクールバス	路線バス
運行主体	市教委（業者委託）	バス会社
運行時間（ダイヤ）	市教委で作成	バス会社で作成 （校時表に合わせる）
運行台数	1～2台	1台 （定時；朝1便、夕2便）
土日祝日運行	運行しない	運行しない
長期休業中運行	運行しない ※地区水泳に合わせた運行については検討する。	運行する
臨時運行	対応可能	対応可能
課外授業運行	対応可能	対応不可 別途公用バス等配車必要
地域住民乗車	乗車できない	乗車できる （児童乗車バス停以外での停車の可能性あり）
立席乗車	なし	あり
乗車証 （学校への持ち物以外）	なし	あり（乗車定期券）
児童の費用負担	なし	なし（定期券も全額公費）
バス停、ルート	今後の調整となるが、路線バスのルートと大きくは変わらない。	12箇所（児童乗車バス停8箇所）
丹波竹田駅への結節	なし	あり
校舎内敷地への乗入れ	あり	なし（道路上停車）
児童急病等運行中トラブルの対応	運行管理委託先と緊急時の連絡体制を整備する。	他の公共交通と同様だが、緊急時の連絡体制を整備する。

竹田・前山統合小学校「校名」募集要項（案）

- 1 募集目的 竹田小学校と前山小学校の統合に伴い、令和6年4月に開校する新しい丹波市立小学校の「校名」を募集します。
- 2 募集期間 令和4年9月〇日（〇）～11月〇日（〇）必着
- 3 応募対象者 市島町在住者・市島地域の小中学校を卒業した方
- 4 応募条件 漢字、ひらがな、カタカナを使用してください。
- 5 応募点数 お一人につき1点
- 6 応募方法 裏面の応募用紙に候補校名・校名の意味や解説・応募者氏名を記入のうえ、①郵送、②ファクシミリ、③電子メール、④直接持参による提出もしくは下記の応募用紙が備え付けてある場所に提出してください。
（丹波市役所・各支所、丹波市教育委員会、竹田小学校、前山小学校、吉見小学校、鴨庄小学校、三輪小学校、市島中学校）また、丹波市ホームページからダウンロードすることもできます。
HPアドレス <https://www.city.tamba.lg.jp/>
右のQRコードを読み込み、携帯電話などから応募することもできます。
- 7 応募先
（問合せ先） 〒669-3198 丹波市山南町谷川 1110 番地
丹波市教育委員会事務局 教育部教育総務課
TEL 0795-70-0810 Fax 0795-70-0814
E-mail kyouiku-soumu@city.tamba.lg.jp
- 8 その他 決定した校名の著作権は、丹波市教育委員会に帰属するものとします。
必ずしも応募数の多い候補校名を校名案として決定するものではありません。



竹田・前山統合小学校「校名」応募用紙（案）

ふりがな		
候補校名		
校名に込めた 想いや意味		
応募者	氏 名	
	住 所	
	連絡先	

■小学校統合後(竹田・前山)のアフタースクール運営について

□ 丹波市内のアフタースクールの状況

丹波市の全ての小学校区において、1小学校区につき1アフタースクールを設置し、学校周辺の施設で実施している。

□ 竹田・前山アフタースクールの現状

名称	登録児童数	条例定員	クラス数	指導員数	実施場所	運営委託法人
竹田アフタースクール	25人	75人	1クラス	3人	旧竹田幼稚園	(福)竹山愛育会
前山アフタースクール	12人	40人	1クラス	3人	前山小体育館 ミーティングルーム	

〔条例定員〕 児童1人につき1.65㎡以上を確保する。

〔クラスの児童数基準〕 おおむね40人以下とする。

〔職員配置基準〕 クラス(支援単位)ごとに2人以上、30人を超える場合は1人配置する。

□ 竹田・前山アフタースクール運営の課題整理

●現利用登録数37人が利用する場合

項目		竹田アフタースクールで実施	前山アフタースクールで実施	【参考】2か所(竹田・前山)で実施
施設整備改修		利用人数が増えることによる改修は必要ないが、S48建築のため長寿命化改修工事は必要。	利用人数が増えることによる改修は必要なく現状のまま施設を使用できるが、経年による修繕対応は必要。	—
運営	職員	1クラス(30人超)、指導員5人(うち加配2人)	1クラス(30人超)、指導員5人(うち加配2人)	竹田:1クラス、指導員3人(うち加配1人) 前山:1クラス、指導員3人(うち加配1人)
	費用	2か所を運営するより20%程度費用が抑えられる。	2か所を運営するより20%程度費用が抑えられる。	2か所を運営する費用が必要。
登所・降所	通常時	《登所》 学校から徒歩で移動する。	《登所》 竹田:学校からアフタースクールまでの移動手段を確保する必要がある。 前山:学校から遠距離通学支援(スクールバス等)により移動した後、アフタースクールまで徒歩で移動する。	《登所》 竹田:学校から徒歩で移動する。 前山:学校から遠距離通学支援(スクールバス等)により移動した後、アフタースクールまで徒歩で移動する。
		《降所》 各家庭で迎え(前山からは距離がある)	《降所》 各家庭で迎え(竹田からは距離がある)	《降所》 各家庭で迎え
	長期休業中等	各家庭で送迎	各家庭で送迎	各家庭で送迎
学校との連携、情報共有		学校とすぐに連携、情報共有できる関係を構築する必要があるが、隣接地で実施していることから連携が比較的スムーズにとれる。	学校とすぐに連携、情報共有できる関係を構築する必要があるが、学校との立地的距離があることから連携のスムーズさに欠ける。	学校とすぐに連携、情報共有できる関係をそれぞれ構築する必要があり、アフタースクール間での連携が必要なものも考えられる。
その他		・当日の利用児童の確認方法を検討(誤ってスクールバス等で帰宅してしまうことも考えられる)	・当日の利用児童の確認方法を検討(誤ってスクールバス等に乗車してしまうことも考えられる)	・子ども達の友達関係への影響 ・学校からの課題(宿題)に対する影響 ・当日の利用児童の確認方法を検討(誤ってスクールバス等で帰宅してしまうことも考えられる) ・アフタースクールでの年間行事(七夕会やクリスマス会等)実施方法の検討

健康福祉部 子育て支援課

統合後のアフタースクールに関する経過報告

1 経過報告

7月8日（金）開催の第6回竹田・前山地域部会での協議を受け、下記の日程で校区ごとに統合後のアフタースクールについて意見交換会を開催した。

- 8月22日（月） アフタースクール意見交換会（竹田校区）
- 8月23日（火） アフタースクール意見交換会（前山校区）
- 8月24日（水） アフタースクール意見交換会（竹田校区）
- 8月25日（木） アフタースクール意見交換会（前山校区）

[意見要旨]

（竹田校区）

- ・前山の方は竹田アフターに通うのだろーと思われているのではないかと思いますので、当日の利用児童の確認方法など前山の保護者の不安が解消されるようにしてもらいたい。
- ・統合後は竹田アフターで実施されられている雰囲気がある。
- ・竹田の方は、自分達は現状と何も変わらないと思われているのではないかと。
- ・迎えの時間に不安を感じられている方もいるのではないかと。
- ・意見交換会の内容の発信と意見を書ける用紙を配布すれば、来れなかった方も意見が言いやすいのではないかと。
- ・統合になった場合、利用時間や指導員の数に変更はないのか。
- ・子ども達の安全や安心感、学校に忘れ物をした場合などを考えると徒歩で移動できる竹田アフターの方が良いのではないかと。
- ・放課後に前山まで移動するとなった場合、移動時間を考えるとアフターで過ごす時間が短くなる。迎えに行く時間が4時30分までぐらいなので、親としては宿題ぐらい終わって帰ってきて欲しい。
- ・竹田アフターで実施するのが良さそう。

（前山校区）

- ・前山と竹田のそれぞれで実施するのが良いと思っていた。年間行事を実施する際にお互い交流していくのが良いと思っていた。
- ・2か所を運営していく事に対するリスクがあるのは理解できる。
- ・2か所で実施する場合、スクールバスが利用できれば、迎えの面も現状と変わらないので良いのではないかと。
- ・地域として何もかも無くなってしまうが寂しい。
- ・各家庭にアンケートをとって意見を集約するのが良いのではないかと。
- ・実施場所が変われば、勤務先によっては迎えの時間に不安を感じられている方もおられるのではないかと。
- ・毎日利用されている方と長期休業中利用の方とは意見が違うかと思う。

2 今後の予定

- 9月5日（月）～ 現在の利用者を対象に統合後のアフタースクールに関するアンケートを実施

会議記録

令和4年8月29日

●会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第6回 吉見・鴨庄・三輪地域部会

●日時 令和4年8月26日（金）19:30～21:00

●場所 ライフピアいちじま 研修室

●出席者 委員：坂谷高義、木寺章、湊上利美、由良英樹、加藤宏生、長井勇人、
波多野真由奈、坂谷幸久、若林久美子、足立圭造、内田順子、中
澤正樹
教育総務課：船越係長、畑中
学校教育課：谷川副課長

●協議事項

①1校統合について

②三輪小学校の統合の時期について

事務局より、1校統合で要する検討項目の説明や、前回の統合準備委員会や他の部会で
出た意見を資料で説明し、1校統合と三輪小学校の統合の時期について委員の意見を伺っ
た。

【意見等】

- ・美和地区のPTA役員やこども園保護者、地域の方が集まった意見交換の中では、1校に
統合してほしいという意見が多かったが、実際に実現するのは難しいのではないかと感
じているため、小学校やこども園の保護者からは「できるだけ早く」という強い意見が
寄せられていることも考慮し、令和12年度を待たずにできるだけ早く統合を実施してほ
しい。また、令和12年度以降という表現も不確定なので不安に感じている。
- ・令和12年度以降になると、かなり先の話に感じてしまうので、美和地域の「できるだけ
早く」という意見を叶えてあげてほしい。
- ・元々は令和8年度に統合が可能という見込であったので、令和12年度よりは早く統合を
してほしいと考えている。増築等で費用がかかってしまうことも理解しているので、三
輪小学校の統合を早める何かいい提案などがあれば教えてほしい。
- 1校統合を実施する場合は新校舎の建設が必要となるため、段階的統合の時点での投資
は難しい。昨年度までの委員の中でも施設整備に予算を投入するのは避けるべきという
意見が多かった。また、施設改修を実施する場合は設計や工事で最低でも2～3年は要
する。他の小学校でも大規模改修を要するところがあり、工事の実施が同年度に集中し
ないように調整が必要になってくる。（事務局）
- ・令和12年度以降まで待てば校舎改修なしで入れるという話であるが、考えるべきは費用
のことではなく、子どものために何をできるかではないか。少しでも早く美和地域の願
いを叶えてあげるべきである。
- 改修費用などの予算だけで考えているのではなく、人数の増減や35人学級の適用が始ま
り、学級数見込みが微妙な年代ができたことなどの諸事情により、三輪小学校統合の前
提が変わってしまったため、現在改めて検討いただいていることをご理解いただきたい。
（事務局）
- ・何もないところに校舎を建てるのではなく、現在ある校舎を使うので、少し費用をかけ

ればなんとかなるのではないか。

- 以前、吉見小学校は狭いということは伝えたが、全部で9クラスとなる場合は教室が足りないのに加え、昔と違い、不登校や生活指導事案対応などの教室が必要になるため、教室数については非常に心配している。また、市島地域の小学校の教室は他の地域と比べて狭く、鴨庄小学校と合同授業を実施した際に3年生は30人集まったが、教室が一杯であった。実際に教室を利用した際に支障がないか等、教育の質についても検討しないといけない。
- ・竹田・前山地域部会では一旦1校統合を凍結するという結論を出されたが、将来の市島地域の教育環境を良くするという視点で考える必要があり、最終的には1校にするという方向に持っていくことが大切だと思っている。
- 最終的に1校にするのは賛成だが、場所や時期などの具体的な事項を決めるのはもう少し先でいいと思っている。
- ・最終的には全体会での話し合いで決めないといけない事項なので、1校統合が難しいという結論になった場合は三輪小学校が吉見小学校と鴨庄小学校に統合できる形にするのがよい。
- ・三輪小学校が吉見小学校校舎に統合で行く場合に教室数が足りないのであれば、最初に余裕のある大きな校舎を建てておいて、後から竹田・前山地域の児童が入るといった形はどうか。
- 1校になるかどうか決まっていなかった段階で大きい校舎を建てるのは難しく、将来的に児童数が減って校舎が大きすぎたという結果にもなりかねない。(事務局)
- ・学校統合を短期間で繰り返すことは子どもたちや地域の人たちにとって負担が大きいため、竹田・前山地域部会の委員が言われることも納得できる。幼小連携などこども園単位の教育環境を大切にするのであれば、施設整備を行い統合して、1校にするのはある程度先という形にするのもよいと思う。また、1校の話を開くのは複式学級が生じたときではなく、市島地域として1つの学校にしていこうという思いが出てきたときにこのような会を立ち上げるべきだと考える。
- ・美和地域としては、見通しが立たない令和12年度「以降」という表現について不安に感じている。個別協議でも、少しでも早く、多くの人数の中で学ばせてあげたいという意見が寄せられていた。
- ・将来的に1校になるというのは賛成だが、今後も今のような形で統合の場所や時期などの具体的な事項を明確に決定しようとするのは現実的ではないと思う。
- ・例としてあるような段階的統合後に複式学級が生じた場合に1校統合を検討するという形で決定されれば、現在決定している統合（吉見小・鴨庄小と竹田小と前山小）が完了した後、複式が生じるのはかなり先の話になるので、吉見小学校を改修して三輪小学校の統合早めることができるのではないかと考える。
- 今後の児童数が確かではないので、断言することはできないが、1校統合が未定の状態よりは検討はしやすくなる。(事務局)
- ・美和地域が統合をしたいと考えている理由に、「幼小連携」もあるはずで、教育委員会でもスタートアッププログラムも作って取り組まれている。人数や校舎の話だけではなく、幼小連携をもっと深めて特色ある教育を行う必要性や教育の質について考えていく必要がある。それらについて、吉見小学校と鴨庄小学校の統合後も、3地域で検討していかないとはいえないと考えている。
- ・三輪小学校が吉見小学校と鴨庄小学校と統合した場合、アフタースクールは1校区につき1カ所の方針に基づき、現在の吉見アフタースクールに通うことになっても問題はないか。(事務局)
- 保護者からは、「せっかく学校が統合したのであれば、アフタースクールも一緒に通わせ

てあげたい。」という意見や、「アフタースクールまでの距離が遠くなるので、送り迎えの時間を延長するなどの対応をしてほしい。」という意見が寄せられたが、吉見アフターに通うこうとについては、概ね了承はしてもらえ则认为ている。

【決定事項】

1校統合については、地域部会としての結論は出さず、次回の全体会場で協議を行う。三輪小学校の統合の時期については、全体会の1校統合に関する協議結果を受け、次回の地域部会で検討する。

●その他

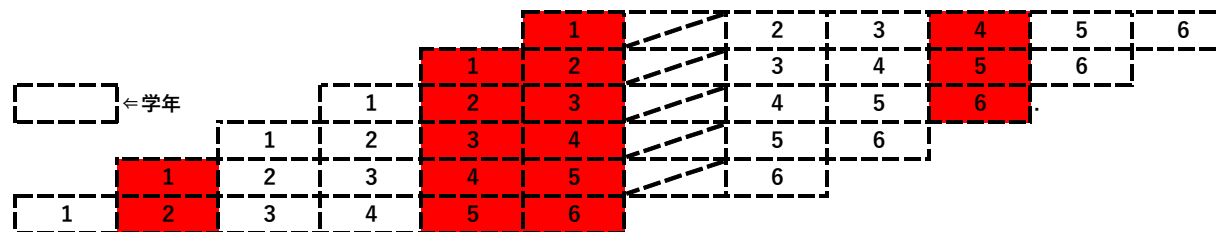
- ・次回日程 未定
ライフピアいちじま 研修室

吉見・鴨庄・三輪 児童数及び学級数の推移

【吉見・鴨庄・三輪】

R4.3.31住民基本台帳データより

学校名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
吉見小学校	10	17	17	13	16	16	89	11	16	20	20	18	18	103
鴨庄小学校	7	7	4	9	11	11	49	4	7	11	7	8	3	40
三輪小学校	9	13	8	12	10	20	72	12	10	25	11	11	15	84
合計（吉見・鴨庄）	17	24	21	22	27	27	138	15	23	31	27	26	21	143
合計（吉見・鴨庄・三輪）	26	37	29	34	37	47	210	27	33	56	38	37	36	227



年度	学級数
R5	8
R6	9
R7	9
R8	8
R9	9
R10	9
R11	8 以上
R12	7 以上

: 10人未満の年齢
 : 10人未満かつ複式学級又は複式学級の可能性がある年齢

: 36人以上になり、2学級になる年代
 : 36人以上になるが、学級人数引き下げの段階的措置により、当該年度では40人学級が適用される年代

【三輪小学校統合時期の検討に係るこれまでの経緯】

- ・現状の吉見小の改修を最小限で三輪小学校の統合を実施する場合、7クラスとなる**R8を最短**としていた。
- ⇒移動等により予定児童数が増加したため、大規模な増改築を行わない場合は、最短でR12以降でないとは統合するのは難しい。

1 校統合の検討項目

統合の「形態」

- 小中一貫教育
 - ・義務教育学校
 - ・施設一体型・施設分離型

【参考】「市島地域のこれからの教育を考える会」提言

同一敷地内に小中一貫教育校を設置し、小学校から中学校の9年間の学びと育ちの連続性を保障した、特色ある教育課程、特色ある学校行事、PTAの活性化等、より活力にあふれた学校運営が展開できる環境を創ることで、市島地域としても、地域の文化、人のつながり、豊かな自然を活かしたまちの魅力の一つとして、地域外からの好影響が期待できる。

統合の「場所」

- 新たな場所を設定（新校舎建築）
 - ・建設用地の確保が必要
 - ・建設費が高額になる
- 既存校舎の活用
 - ・教室数が不足⇒増築／統合時期の調整

統合の「時期」

- 段階的統合との調整
 - ・吉見小・鴨庄小⇒R5（三輪小は検討中）
 - ・竹田小・前山小⇒R6
- 時期の決め方
 - ・明確な時期の決定⇒「R〇に1校に統合する」
 - ・統合の条件を決定⇒「（例）段階的統合後、更に複式学級が発生した場合に1校統合を検討する」

1 校統合の方向性について

方向性	意見・今後の対応
実現を目指す 形態・場所・時期を具体的に決定	・もともとの提言に向かって1校統合を目指すべき。 ・美和地域の意見では1校にしてほしいという意見が多かった。 ・将来の市島地域の教育環境を良くするという視点で考えると、最終的には1校にするという方向に持っていく必要がある。 ⇒形態・場所・時期の決定を目指す。
一時的に休止 一定の条件になるまで 1校協議は行わない	・個別の統合が忙しくなるため、落ち着くまでは1校協議は難しく、負担にも感じる。 ・1校統合の協議を進めることで校舎改修が先延ばしになる可能性もある。 ・ある程度人数が減って複式学級が予想される時点になってから1校統合を考えるべき。 ・学校統合を短期間で繰り返すのは子どもや地域の人たちにとって負担が大きい。 ・最終的に1校になるのは賛成だが、今の段階で統合の時期や場所などの具体的な事項を決めるのは現実的ではない。 ⇒1校統合の具体的事項（形態・場所・時期）の検討は行わず、段階的統合の協議のみを実施する。 ⇒将来的な協議再開の条件等を定めるかどうか検討する。 ※将来的に複式学級となる（見込まれる）場合に協議を再開する（例）
完全に休止 基本的に1校統合協議は行わない	市の適正規模・適正配置基準に基づき、複式学級が見込まれる場合は協議を検討する可能性あり。

市島地域 児童数の推移予測（地域部会別）

【竹田・前山】

R4.3.31住民基本台帳データより

学校名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
竹田小学校	16	9	11	10	15	11	72	14	12	13	13	15	19	86
前山小学校	5	7	8	8	8	4	40	11	7	12	13	14	15	72
合計	21	16	19	18	23	15	112	25	19	25	26	29	34	158

【吉見・鴨庄・三輪】

学校名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
吉見小学校	10	17	17	13	16	16	89	11	16	20	20	18	18	103
鴨庄小学校	7	7	4	9	11	11	49	4	7	11	7	8	3	40
三輪小学校	9	13	8	12	10	20	72	12	10	25	11	11	15	84
合計（吉見・鴨庄）	17	24	21	22	27	27	138	15	23	31	27	26	21	143
合計（吉見・鴨庄・三輪）	26	37	29	34	37	47	210	27	33	56	38	37	36	227

【全校児童数推移】

	R5	R6	R7	R8	R9	R10
竹田・前山	139	133	125	119	116	112
吉見・鴨庄	149	150	145	135	136	138
吉見・鴨庄・三輪	238	238	234	207	211	210
5校区全体	377	371	359	326	327	322

【複式学級の基準】

となりあう2つの学年の児童の合計人数	
1年生を含む場合	8人以下
1年生を含まない場合	14人以下

第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針（要旨）

1 丹波市立学校適正規模・適正配置方針とは

人口減少・少子高齢化が進む中、子どもたちのよりよい教育環境を整備するために、市内小中学校の標準学級数や配置のあり方について定めた方針。令和2年度に丹波市立学校適正規模・適正配置検討委員会を開催し、その内容について検討され、提出された答申を基に令和3年度から令和12年度までの10年間の方針として定めている。

2 適正規模

- ① 小学校は1学年1学級以上が維持できる規模とする。
- ② 中学校は1学年2学級以上が維持できる規模とする。

※国の基準

小学校の標準学級数：12学級～18学級

中学校の標準学級数：12学級～18学級

3 適正配置

（1）通学距離・通学時間

- ① 通学距離 基準を設けない。
- ② 通学時間 通学方法にかかわらず小中学校とも1時間以内とする。

※国の基準

通学距離が、小学校にあってはおおむね4km以内、中学校及び義務教育学校にあってはおおむね6km以内であること。

（2）学校の構成

- ① 地域内（旧町域）に小中学校を各1校以上配置する。

（3）学校統合

- ① 小学校は複式学級規模となる場合又は複式学級規模となることが見込まれる場合に地域合意のもと、その学校のある地域（旧町域）で統合協議を行う。ただし、完全複式（3学級）規模となる場合は、地域合意の如何を問わず速やかに統合協議に入る。
- ② 中学校は統合協議を行わない。